

〔八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策〕

## フラ用イシカグマおよびティの施設栽培における病害虫防除対策

### ～病害虫の発生状況および防除薬剤による薬害と汚れの確認～

宮下千枝子・金川利夫・竹内浩二<sup>\*,\*3</sup>・嶋田竜太郎<sup>\*2,\*3</sup>・小谷野伸二<sup>\*</sup>・小野 剛<sup>\*</sup>・竹内 純  
(島しょセ八丈<sup>\*</sup>・生産環境科<sup>\*</sup>・<sup>\*2</sup> 病虫害防除所) <sup>\*3</sup> 現島しょセ大島

---

【要 約】施設栽培において、イシカグマではヨトウムシ類、イノモトソウノメイガなど5種類、ティではハダニ類、アザミウマ類など7種類の病害虫の発生を確認した。また、花き・観葉植物に登録のある薬剤7剤はイシカグマに対して薬害・汚れは発生しない。

---

#### 【目 的】

イシカグマおよびコルディリーネ「ティ」は、フラ用のレイ・プランツとしての栽培実績が無く、病害虫の情報もほとんどない。そこで、施設栽培における防除対策に資するため、病害虫の発生状況および登録薬剤における薬害・汚れの有無を確認する。

#### 【方 法】

2008年7月～2010年12月に、ビニールハウスおよびネットハウス（ラスハウス）の2施設においてイシカグマとティを栽培し、各々に発生した病害虫の種類と時期を調査した。また、イシカグマでは八丈系統を供試し、2009～2010年の夏期および冬期に、花き類・観葉植物に登録のある7薬剤（表2）を散布して、薬害と汚れの有無を調査した。

#### 【成果の概要】

1. イシカグマでは、ビニールハウスとネットハウスに共通する害虫として、イノモトソウノメイガ、ヨトウムシ類、クワゴマダラヒトリによる葉の食害を確認した（表1）。特にヨトウムシ類の被害が甚大であり、多発した場合は1～数ヵ月に亘り上物の収穫が困難となった。これらの害虫は施設の隙間等からの侵入に注意し、侵入した場合は早期に防除することが重要である。ただし、イノモトソウノメイガの幼虫は葉先を玉状に巻き、その中で食害し蛹化するため、殺虫剤散布による防除効果は低かった。ビニールハウスのみに発生した病害虫としては、カタカイガラムシと灰色かび病が確認された。
2. ティでは、発生する病害虫の種類や程度が施設間で大きく異なった（表1）。害虫については、ビニールハウスではハダニ類とアザミウマ類が多発し、ナメクジ・カタツムリ類は周年で発生した。一方、ラスハウスでは、ハダニ類、アザミウマ類の発生はほとんど無く、ナメクジ・カタツムリ類は多雨期のみ発生し、アブラムシ類は散発的な小発生に留まるなど、総じてビニールハウスより害虫の発生は少なかった。病害については、両施設に共通して冬～春に炭疽病が発生した。また、ラスハウスでは秋の長雨時に疫病による立ち枯れが発生した。なお、葉に赤色小斑点を多数生じる症状がビニールハウスではほぼ周年で見られたが、原因は未だ不明である。
3. イシカグマに対して殺虫剤のアディオン乳剤ほか5剤と殺菌剤のゲッター水和剤を散布処理した結果、夏期・冬期ともに、全ての薬剤で薬害はみられなかった（表2）。また、いずれの薬剤も処理後、出荷時に問題となるような汚れはほとんど見られなかった。
4. まとめ：イシカグマでは5種類、ティでは7種類の病害虫の発生を確認した。また、イシカグマでは登録薬剤7剤に薬害・汚れの問題が無いことを確認した。

表1 イシカグマ *Microlepidia strigosa* およびティ *Cordyline terminalis* cv. Ti で発生が確認された病害虫

作物	施設 <sup>a</sup>	病害虫	発生月												発生程度	備考	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
イシカグマ	共通 <sup>b</sup>	ヨトウムシ類 <sup>d</sup>														少～甚	幼虫が葉を食害。一度侵入すると施設内で連続して発生。
		イノモトソウノメイガ														少	幼虫が葉を食害。
		クワゴマダラヒトリ														少	幼虫が葉を食害。施設の隙間から幼虫が侵入する。
	ビニールハウス	カタカイガラムシ														少	葉裏や葉柄に群生して付き、葉が退色する。
		灰色かび病														中	葉が込み合い、ハウス内の湿度が高いと発生。
ティ	共通 <sup>c</sup>	クワゴマダラヒトリ													少	幼虫が葉を食害。施設の隙間から幼虫が侵入する。	
		炭疽病													少	葉先や葉縁に褐色病斑を生じ、葉枯れを起こす。	
	ビニールハウス	ハダニ類													少～甚	ほぼ周年で連続的に発生。	
		アザミウマ類													少～甚	夏季を除き連続的に発生。	
		ナメクジ・カタツムリ類													少～甚	ハウス内の湿度が高いと多発する。	
	ラスハウス	ナメクジ・カタツムリ類													少～甚	多雨期に多発する。	
		アブラムシ類													少	散発的に発生し、葉裏や茎頂部に群生して付く。	
		疫病													少～中	地際の茎や葉が腐敗し、上方が萎凋、枯死する。	

a) 2008年7月～2010年12月に、八丈事業所内のイシカグマおよびティの栽培施設において調査した。いずれの施設もTN-30(トヨネン社製、目合い3×5mm)で被覆した。b) ビニールハウスおよびネットハウス。c) ビニールハウスおよびラスハウス。d) ハスモンヨトウおよびツマキリヨトウ類。

表2 各種薬剤によるイシカグマの薬害および汚れの有無

農薬名 <sup>a</sup>	毒性	処理濃度 (希釈倍率)	夏期		冬期	
			薬害 <sup>b</sup>	汚れ <sup>b</sup>	薬害	汚れ
殺虫剤						
アディオソ乳剤	普通	2000	-	-	-	-
アフアム乳剤	普通	1000	-	-	-	-
コテツフロアブル	劇物	2000	-	-	-	-
スプラサイド水和剤	劇物	1000			-	±
ディプテレックス乳剤	劇物	1000	-	-	-	-
マラソン乳剤	普通	2000	-	-	-	-
殺菌剤						
ゲッター水和剤	普通	1000			-	±

a) 花き類・観葉植物に作物群登録のある農薬を供試し、1薬剤につき夏期(7～9月)と冬期(12～2月)に各2回ずつ散布処理を行った。

b) 薬害評価は、-:薬害無し。汚れ評価は、-:汚れ無し、±:集積した場所など一部に汚れあり。空欄は未調査。